

補足資料

以下は、中津皮膚科 院長にお話を伺った内容です。

◆翌日の発熱その他の症状について

ヒスタミン中毒の症状は潜伏期間が短い事が特徴です。
その症状は30分～3時間程度で現れ、36時間以内には治まっています。

事後の様子確認のため各御家庭にお電話しました所、3名に翌日の発熱が確認されました。

ヒスタミン中毒の潜伏期間は短く、即効性のものです。
対してアレルギー症状は48時間後にピークを迎える遅発性のものがあります。

発熱その他の症状が遅れて現れたことについては、今回の中毒とは関係ない可能性が高いのですが、誘発されている可能性もないことは無い との見解を頂きました。

直接原因は無いかも知れませんが、関連している可能性も否定できません。
気になる症状がある場合は、早めに病院受診をお願いします。

◆今後の摂食について

ヒスタミン中毒はヒスタミンの多量摂食による中毒ですので、基本的にその症状が出たから、サバを食べられなくなるという事はないとの事です。

例)毒キノコを食べて中毒症状を起こしたとしても、きのこは食べることが出来る。

こども園の給食では、既存業者(もしくは新規業者)のチェックを経てから、
納入に問題ない事を確認する必要が有りますので9、10月は赤みの生魚を使用するメニューを
入れないようにしますが、ご家庭においては摂食の制限ありません。

※受診された方の中には「1ヶ月程度の摂食を控える事」と診察された児童もいますが、
それは受診段階でヒスタミンとアレルギーの区別がつかなかったことによる診断です。

仮に赤みの魚を食べて類似の症状が出た場合は、園にもご連絡ください。

注)

ヒスタミンが高濃度に発生している魚は食べた時、舌にピリリとした刺激があります。
今回、こども園のメニューは塩サバであり塩気が強いなという感想はありましたが、
異常とは感じる事が出来ませんでした。
ご家庭においても、お気を付けいただければと思います。